ペンギンの会ニュース

No.43　2023.4

ペンギンの会を支えてくださっている皆さん、お元気でお過ごしでしょうか？

今年の冬は温度の変化が激しく、体調が悪くなり大変でした。今年も桜をめでることができず、残念でした。

私事ですが、リボトリールという薬の減薬を 1 月 20 日から行っています。22 年前に飲み始め、頭痛がひどくなるたびに増やして、去年の夏には一ヶ月に 65 個も飲むようになっていました。あまりに体調が悪いので、12 月に嵐山にある精神科のクリニックに相談に行ったところ、リボトリールが原因だと言われ、減薬を開始することにしました。今は二週に一度、7 パーセントずつ減らしていっています。禁断症状で頭痛がきつく出て苦しんでいますが、順調にいけば一年半くらいでリボトリールを抜くことができ、頭痛も便秘も楽になるそうです。

宇治に越してきて五年くらい経った頃から、学生の介護者を新しく入れるのをやめていました。ですが、入ってくれている人が就職や病気で関われなくなったので、23 年前から介護者として多くの学生が関わってくれてきた地塩寮から、また学生を紹介してもらいました。新 2 回生のK君という人が会いに来てくれて、私の話を真摯に受け止めてくれ、今年の新入生を誘う役割を引き受けてくれました。いつまで 18、19 歳の人達に話をしていけるのかわかりませんが、ここに来てくれる人がいる限りやっていこうと思っています。「障害」者が受けてきた偏見や差別的な言動等、また外国人に対しても同様なことが今の時代もなくなってはいないので、私より若い人達に伝えたいことはたくさんあります。3 月は中旬から三人の方に会い、50 歳の時に出した本を手渡すことができたのもとても嬉しかったです。

他者に支えられ、生かされている人間なので、人とのつながりを大切に、これからどんな状況になろうとも動じることなく、今の生活を維持していくつもりです。ペンギンの会のメンバーそれぞれが体調や生活のことで大変そうですが、来月から行ける人はペンギンの事務所に行って会議を持つことにしました。行くのが難しい人は ZOOM 参加となります。これからのペンギンの会のありようについても 30 分ずつ時間を取って話してゆくことになりました。自立「障害」者として何ができるのか皆で考え続けてゆきます。

皆さんもそれぞれの現場で大変でしょうけれど、何(なん)とかしのいでくださいね。立(た)ち止(ど)まることはあっても、気持ちだけは前を向いて、歩いてゆきたいですね。これからも共に歩んでください。よろしくお願いします。

李清美

繁周作です。

　コロナ禍や頸の痛みなどでこの数ヶ月間は引き籠りがちでしたが先日、久しぶりに近くの山科川の堤防に行ってお花見してきました。
　毎年行ってますが例年に増して開放感を感じながら花見を満喫しました。

　ここに何を書くか？ネタがなくて困りましたが、困った末にちょっとズルして（？）「こんな夜更にバナナかよ」のビデオを観てみました。
　内容はペンギンに関わられいてる皆さんなら殆どの方がご存知でしょうから省きますが、公的支援が殆どない時代に重度障害者が自立生活をする事の大変さを改めて知りました。

　…というと「お前はどうやったんや？」と訊かれると思いますが私の場合は幸い50歳代半ばくらいまでは今よりかなり障害が軽くて外出・トイレ・入浴なども含めて日常生活動作はなんとか出来ていました。

　その後、60歳が近付くにつれ、やはりCPの性か急速に重度化し、公的支援もあっと言う間に「家事支援のみ3時間×2回／週」から「重度訪問介護サービスで15時間／日の支援」を受けるに至りました。
　それでも例え24時間介護が必要になっても「あくまで自分らしい生き方を一生貫きたい」と思っています。

僕の近況　　東純之介

　相変わらず法律の資格試験の勉強を続けていますがなかなか結果が出ませんね。勉強時間が足りないのか勉強方法が間違っているのか。とにかく独学なのでわからないことが多いのですが挫けずに頑張っていきたいですね。ちなみに最近受けた試験では行政書士試験ですがダメでしたね～。ショックでした。何しろ予備校の通信講座をわざわざお金払って取ってまで頑張ったのでとてもショックですね～。あとはもう過去問の独学でやっていくしかやり方を思いつきませんね。もし誰かいい方法を知っていたら教えてくださいね～。まあ本命は司法試験ですがこちらは司法試験予備試験の短答式試験ですら通らないですね～悲しい～。とにかく受かるまでは挫折しない限り頑張りたいですね。

筋璽主汗(キンジス・ハーン)自伝 その九

『筋璽主汗、“青い芝”の写真が奇縁で、嘗ての恩師と再会すること』 ユグ

２年ぶりの自伝形式でございます。

ペンギンの会は、70 年代の“青い芝”を主とした障害者解放運動が原点です。その経緯から、「ペンギンは、かの“青い芝”の流れを組んでいる」と認識されていたりします。

障害当事者によって闘われてきた歴史を知り、ユグも自分を障害者として強く意識するきっかけとなりました。そして同時に、懐かしい人と再会することにもなったのです。

話はユグが中学生の頃に遡ります。ユグは小・中・高と普通教育を受けてきました。ユグの中学校では、毎年 12 月頭に全校挙げての人権学習がありました。中1(1985 年)の時、障害者問題に取り組みました。

担任のM先生(社会科・当時卓球部顧問)に、御自身の大学時代の障害者との交流を個人所蔵の写真と共に話してもらいました。その中にちと気になる大きめの写真があり、キャンプ場で障害者・健全者の区別なく 20 数人の若者たちを写したものでした。(当時のM青年も)

印象に残った理由は、健全者も写っていたとはいえ、何人もの重度障害者が一枚に収まった写真を見るのが初めてだったからかもしれません。

M先生はユグを2年連続で担任して下さったあと、他の中学に異動されました。

時は流れて 1997 年、ペンギンに入って1年目のユグは、初秋のある晩、今は亡き高橋公子さん宅できれいに整理されたアルバムを見せてもらっていました。その中の一枚に、むかし見た覚えのある集合写真があり、

「公子さん、ぼく中学ん時、人権学習で担任の先生に、これとよう似た写真、見せてもらったことあるんですけど…」

公子さんによると、それはかつて青い芝の障害者と健全者が共に張った交流キャンプでの写真でした。

同じ頃、ペンギンに、学校教員の有志で構成された或る団体の機関誌が届きました。その機関誌の、各校の先生方の活動や取り組みを紹介する記事の一つに、十数年ぶりの懐かしい名前が載っていました。『…(京都市立)F中学のM・Y先生が〇〇への課題について…』。

F中学に電話するとすぐにM先生に代わってもらえたので、ユグはかなりうろたえてしまいました。

「あっ、あの…M先生ですか？…えぇと、あの…ぼく、ユ…ユグチです…昔、ら…洛東中でお世話になっておりました…ユグチです…あの…その…ど…どうも…ご無沙汰をいたされ…」
ユグのぎこちなさ過ぎる挨拶に最初は当を得なかったM先生も、
「…もしかしてユグチか?…えー、ユグチか！？ いや～こちらこそ長いことのご無沙汰です～。よくぞ電話してきてくれましたー！…あれ?…僕がF中に居てるってユグチ知ってたかな？」
不思議な縁で繋がった師弟2人は、ようやく十数年ぶりの再会を喜ぶ雰囲気に。
　人権学習での写真についてお聴きすると、やはり学生時代の先生が青い芝のキャンプ※に参加された時のものでした(なお公子さん所蔵の写真には、M先生は写っていませんでした)。
　キャンプに参加したきっかけは、M先生の母校D大の同じサークル内の友人が、或る自立障害者の介護に入っていた繋がりからだったそうです。
※おそらく大阪青い芝の会主催で 70 年代に何度か行われた『障害者と健全者の大交流キャンプ』だと思われます。
　M先生所属の団体は東九条マダンにも模擬店を毎回出していて、電話した日から間もない、1997 年 11 月 2 日にマダン(第5回)でM先生と再会できることになりました。M先生は、
「その日は是非とも会わせたい人も来るから、ま一楽しみにしといて(笑)」
「(いったい、誰やろか？)」
　マダン当日はM先生も朝早く会場のグラウンドに来ておられ、お互い一別以来のつもる話に。また、お昼過ぎにM先生は小柄な女性を伴って来られました。その女性が近づいて来ると、ユグは思わず、
「あのっ、K先生ですよね!?　へぇーッ、なんでなんで!?」
笑顔ながら懐かしさに涙を浮かべていたその女性は、ユグの1年1組と隣の2組を受け持つ副担任だった旧姓K先生(数学科・当時工芸部顧問?)で、ユグが卒業したのち、M先生とご結婚されていたのでした(以降、“A子先生”で)。
　A子先生・M 先生は共働きで、ユグとの再会時は別々の中学校におられました。

　奇妙な縁はさらに続き、それぞれが勤務する2校に人権学習の講師としてお招きいただき、一学年クラス全体の生徒さんに講演をしたこともありました(ちなみに2校とも1年生でした)。
　余談ですが、A子先生の勤務校で講演のあと、校長先生(保健体育科＆当時相撲部顧問＆元大関朝潮同期←本人様談)から、こんなことを言われました。
「ユグチさん、あんた、落語好きやろ？」
「はぁ、それはまぁ、好きは好きですけど…」

「そやろ思たわ～。とくに喋ってた時の身振り手振りがなー。いや、アンタ見るからに“そういう顔”してる！」
「（いや…“そういう顔”言われたかて…）」

今回は、ユグの恩師にまつわる話にお付き合いを願っていますが、小学校と高校にもM先生と同世代の恩師が割とおられます(ユグの年齢より、大方 15～16 年ほど年長ですかね？)。

小学校の恩師F先生（小1ユグ初恋の人)に再会した折、青い芝の話をしたところ、
「あー知ってる知ってる！」
と俄然興味のある反応をされました。

また高校の恩師I先生(英語科＆当時中学野球部顧問)を訪ねた際に職員室でこの話をすると、結構驚かれて、
「えー!?　お前いま、青い芝に関係あるとこに居てんのォ！？」
青い芝の名前が出た途端、周りの先生方までが一斉に振り返り、ユグは唖然とさせられました。

ただ話の終わりの方ではI先生から、
「そうかそうか、それは中々良い縁やったな。どうか今後も頑張ってくれよ。」
と至極、理解ある反応を示してもらえたので、ちと誇らしい気持ちになり、「これからも気張って自立生活やって行こ！」とモチベーションが上がりました。

福祉の保障が不十全な時代に障害当事者自身によって行われた“学生の(無償)介護者の募集”や“養護学校義務化反対闘争”。これらはいくつかの記録映画に収められているほど、伝説めいたエピソードになっています。

ユグの恩師の先生方が教育を志した学生時分(70 年代)に、 青い芝はそれぞれに強い印象を与えていたようです。

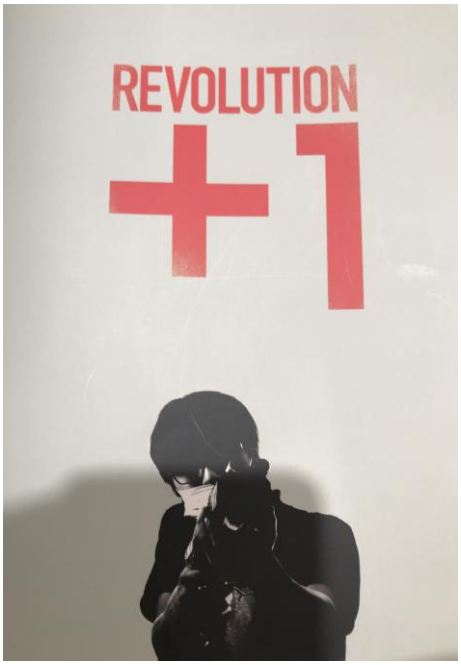
“養護学校義務化反対闘争”のあった 1979 年、障害を持ちながら地域の小学校に通うユグの義務教育が始まりました。

中学時代に恩師の持つ青い芝の写真を見ていたことから、途絶えていた繋がりが復活したのは、単に偶然とは思えないものがあります。今回のお話も、ユグが 1996 年末にペンギンの会と出会ってから、本物の縁を感じたことの一つです。

以上、青い芝のエピソードから始まる、ユグのまわりで起きた奇縁について書いてまいりました。最後までのお付き合い、感謝いたします。

映画『REVOLUTION＋1』を観てきた

繁　朋子



映画『REVOLUTION＋1』って？　どんなんだったっけ？と思われる方もおられるかもわかりませんが、安倍晋三襲撃の容疑者・山上徹也をモデルにした登場人物、役名：川上達也の物語です。そういえば、映画には興味のない方でもほとんど誰もが「ああ…」と約 10 ヶ月程前の事件を思い出されることでしょう。

そして、この映画は足立正生監督が、閣議決定という独断専行で事件から 2 ヶ月半後の 9 月 27 日に強行された安倍の国葬（政府による屁理屈の「国葬儀」???…）に上映で反対を表明しようと驚く早ワザで作り上げられたのですが、そうは思えないほどの見応えのある作品だったのです。昨年の国葬にぶつけて 9 月 26 日～28 日に上映された短縮版 50 分の後、追加撮影のシーン少しを加えて再編集されたのが今回観た 75 分の完成版でした。

容疑者の山上くんから直接聴き取りをすることが不可能なためドキュメンタリー映画ではなく、各メディアで報道された内容を元に描き上げられた脚本中の細かいエピソードは、想像を膨らませた創作の部分も少しはあるでしょうが、非常に納得できるリアルでわかりやすい描かれ方だったので、細かい部分で「真実がどうだったか？」などと詮索する必要を感じさせない、一つの作品として非常に良い出来だと思いました。

足立正生監督自身がこれまた強烈な経歴の持ち主で、1971 年パレスチナ解放人民戦線のゲリラ隊に加わり共闘しながら『赤軍 PFLP・世界戦争宣言』を監督・撮影・出演されたり、その後日本赤軍に合流、国際指名手配となり、1997 年から 2000 年 3 月の刑期満了まで逮捕抑留の経験をもつ強者だったのです。

安倍襲撃の容疑者・山上くんの報道された供述によると『襲撃理由は、イデオロギーには関係ない』とはありましたが、映画の主人公・川上達也のセリフに「襲撃の理由なんて何だってある」、川上が襲撃事件を起こした後に妹が一人つぶやく「『襲撃は民主主義に対する冒涜だ』なんていう馬鹿がいるけど、本当に民主主義を壊したのは誰なのよ!!!」という意味合いのセリフがあったのが思わず心の中で拍手したいほど効いていました。もちろん人の命を奪った罪は許されるもので

はありませんが、襲撃せざるをえない程追い詰められた原因は、痛いほど共感できるところが多々あります。

父親の自殺、兄の病気、母親の統一教会入信・寄進による家族の貧困という主人公の一家族の課題だけではなく、事件の背景にはシングルマザーの貧困・就職前に莫大な借金を背負う奨学金制度の不備・派遣社員の労働問題・経済的に苦しい者が資格取得とか学びたいとなると自衛隊入隊への選択肢に導かれる場合が多い事・インターネット時代の孤独などなど山積する社会問題と、むしろ問題と格差を増大させ人民を分断させ、権力側の支配に都合のよい方向に導こうとさえする政府のやり方。あらためてここで吠えるまでもなく長期安倍政権下で、あたりまえのように強行採決や閣議決定が行なわれるようになり、特定秘密保護法や戦争法が通されたことを始めとして、モリ・カケ・サクラ等公文書改ざんしてまでの決して風化させてはいけない利権の私物化の罪など。

権力によって民主主義がグチャグチャに壊されていっている今、人が襲撃殺人を起こさねばどうしようもないほど追い詰められている現実は自分事なのです。襲撃事件を「山上くんの犯罪」として矮小化して他人事で見過ごせる事ではありません。何としてでも本当の民主主義を平和的に取り戻し、生きることに希望の持てる社会にせねばという思いを新たにした映画でもありました。

そして余談のようになりますが、障害者にとっては決して余談では済ませられない話。京都でこの映画を唯一上映したのが『出町座』という河原町今出川近くの桝形通り商店街にある小さな映画館。ここは2F と地下に上映ホールがあるのですが、どちらも階段のみでエレベーターは無し。行く前に電話をしておけば何人かのスタッフが待機してくれて「車イスの方にもご覧いただけるようできる限りのお手伝いをさせていただきます」とは言うものの、人力でのお手伝いでは重い電動車イスを持ち上げての階段の昇降は無理に思えます。私は簡易電動を1F に置いて、杖ついてスタッフに肩や腕も貸してもらいながら階段昇降しましたが、せっかく行ったのだから「ここでしか観られない貴重な映画をやっている映画館なんやからお金のことは大変なのはわかるけど、障害者は私みたいに杖ついて少し助けてもらったら階段昇降できる人ばかりやないから誰でも気軽に観に来られるよう、立派なエレベーターでなくても簡単なリフトでも良いから付けるよう検討してほしい」と支配人に伝えておきました。先方も「おっしゃってることはよくわかるので検討させていただきます」とは言ってくれました。多くの人が言っていかないとね。

【2022年4月～2023年3月までペンギンの会に会費・カンパをいただいた皆様】

（敬称略・順不同）

☆月会費

小山弘　李清美　湯口真　繁朋子　繁周作　田島信二　金順喜　井上緑

計　４３，０００　円

☆年会費

森岡均

計　６，０００　円

☆カンパ

陳太一　矢野恵子　皆川夏樹　北角和恵　河内啓介　河村史子　東真理子　藤田光恵

岩本豊・京子　湯口憲子　入江泰　里中悦子　又川秀喜　東純之介　小川伸彦

計　１２４，０００　円

総合計　１７３，０００　円

以上の、会費・カンパをいただきました皆様、

そしてその他ご支援をいただいた皆様、

心より感謝を申し上げます。

自立障害者グループ　ペンギンの会

〒612-8411

京都市伏見区竹田久保町62番地

足立ハイツ竹田132号

（地下鉄烏丸線　くいな橋駅　徒歩４分）

電話：075-755-8177（FAX共）

Eメール：pengin.kai@gmail.com

ホームページ：http://pengin-kai.jpn.org/

「ペンギンの会」で検索